

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 7 月 14 日 (2005.7.14)

【公表番号】特表 2001-503439(P2001-503439A)

【公表日】平成 13 年 3 月 13 日 (2001.3.13)

【出願番号】特願 平 10-522116

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 7/075

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/50

C 1 1 D 1/94

【F I】

A 6 1 K 7/075

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/50

C 1 1 D 1/94

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 11 月 2 日 (2004.11.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

# 手続補正書

平成16年11月 2日

特許庁長官殿

## 1. 事件の表示

平成10年特許願第522116号



## 2. 補正をする者

氏名(名称) コグニス・ドイッチュランド・ゲゼルシャフト・ミト・  
ベシュレンクテル・ハフツング・ウント・コンパニー・  
コマンドイトゲゼルシャフト

(ほか1名)

## 3. 代理人

住所 〒540-0001  
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル  
青山特許事務所  
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葆



## 4. 補正対象書類名 請求の範囲

## 5. 補正対象項目名 請求の範囲

6. 補正の内容  
別紙の通り

(別 紙)

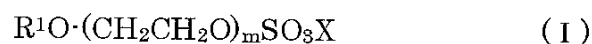
## 請 求 の 範 囲

1. 以下の成分：

(a) 30～80重量%のアルキルエーテルスルフェート、(b 1) 5～20重量%のベタインおよび／または(b 2) 5～20重量%のアルキルおよび／またはアルケニルオリゴグリコシド、  
および(c) 1～10重量%の(オリゴ)エチレングリコール モノおよび／またはジ脂肪  
酸エステル[ただし、示した量は、所望により水および電解質塩を用いて、合計が100重  
量%になる]

を含有する水性のポリオール不含の真珠光沢濃縮物。

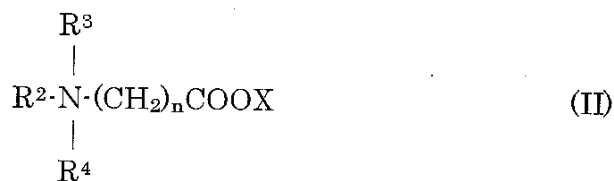
2. 以下の式(I)：



[式中、 $R^1$  は6～22個の炭素原子を含む直鎖または分岐鎖のアルキルおよび／  
またはアルケニル基であり、 $m$ は1～10の数であり、 $X$ はアルカリ金属および  
／またはアルカリ土類金属、アンモニウム、アルキルアンモニウム、アルカノー  
ルアンモニウムまたはグルクアンモニウムである]

で示されるアルキルエーテルスルフェートを含有することを特徴とする請求項1  
に記載の濃縮物。

3. 以下の式(II)：

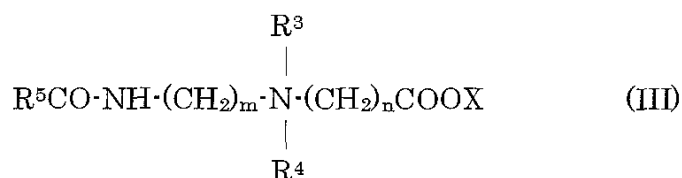


[式中、 $R^2$  は6～22個の炭素原子を含むアルキルおよび／またはアルケニル基

であり、 $R^3$  は水素または 1 ～ 4 個の炭素原子を含むアルキル基であり、 $R^4$  は 1 ～ 4 個の炭素原子を含むアルキル基であり、 $n$  は 1 ～ 6 の数であり、 $X$  はアルカリ金属および／またはアルカリ土類金属またはアンモニウムである]

で示されるベタインを含有することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の濃縮物。

4. 以下の式(III) :



[式中、 $R^5CO$  は 6 ～ 22 個の炭素原子および 0 または 1 ～ 3 個の二重結合を含む脂肪族アシル基であり、 $m$  は 1 ～ 3 の数であり、 $R^3$ 、 $R^4$ 、 $n$  および  $X$  は上記定義の通りである]

で示されるベタインを含有することを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の濃縮物。

5. 以下の式(IV) :



[式中、 $R^6$  は 4 ～ 22 個の炭素原子を含むアルキルおよび／またはアルケニル基であり、 $G$  は 5 または 6 個の炭素原子を含む糖単位であり、 $p$  は 1 ～ 10 の数である]

で示されるアルキルおよび／またはアルケニルオリゴグリコシドを含有することを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の濃縮物。

6. 真珠光沢を有する界面活性組成物の製造のための、請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の真珠光沢濃縮物の使用。